



成長し続けるインパクト投資

インパクト投資の実践例から導かれる新たな知見



市場を拓き、機会を創る

本和訳は、IFC が作成した英文の記事を基にパートナーズ・グループ・ジャパン株式会社が作成したものです。
英文と和訳との間に解釈の相違等がある場合には、常に英文が優先します。英文は以下をご参照下さい。

<https://www.partnersgroup.com/en/news-views/in-the-media/detail/article/ifc-establishing-the-managers-contribution-to-the-achievement-of-impact/>

ケース・スタディ 12: パートナーズ・グループ

署名機関:



パートナーズ・グループは、積極的なプライベート・エクイティ投資を通じて、原則3を実施しています。

2018年、プライベート市場において世界的な投資運用会社であるパートナーズ・グループは、インパクト・アット・スケール投資戦略を立ち上げました。この投資戦略は、企業やインフラ資産のうち、持続可能な開発目標(SDGs)の促進が可能なビジネスモデルを保有する先に焦点を当てています。この投資戦略の中心となる考え方は、積極的なオーナーシップこそが資産のインパクトを高めると同時に、財務パフォーマンスも向上させる効果的な手段であるというものです。パートナーズ・グループは、お客さまに代わり、企業の経営権を取得することで、意義深い価値創造を行い、環境・社会・コーポレートガバナンス(ESG)の取り組みを行います。これは、財務および社会的リターンを双方を高め、マイナスのインパクトを最小限に抑えます。パートナーズ・グループは、これらの取り組みのインパクトを測定するため、シンプルで着実な枠組みを作成しました。

パートナーズ・グループのインパクトへの貢献は、全投資先に対して実施する、デュー・ディリジェンス・プロセスから確認することが出来ます。最初のステップとして、独自のインパクト評価を実施します。この間、パートナーズ・グループは、独立したプロバイダーに、根拠に基づいたモデルの作成を依頼します。投資の中核となる事業活動の測定可能なアウトプット、成果、インパクトが特定のSDGs目標達成にリンクするかを検証します。

原則3に沿って、マネジャーとしてのパートナーズ・グループが、投資先のSDGsインパクトにどの程度貢献するかも評価します。また、投資期間中のパートナーズ・グループのインパクト貢献度を測定するために、いくつかの特定の指標を設定します。パートナーズ・グループのインパクト投資における評価の最終的な成果は、投資期間中に文書化されます。

Techem: 2018年、パートナーズ・グループはお客さまに代わり、Techemに投資を行いました。Techemは、ドイツのエネルギー・インフラおよびエネルギー・サービス企業です。また、「サブメータリング」サービス市場のリーダーでもあります。サブメータリングとは、エネルギー消費者に対して、技術やサービス(定期的に消費データを提供等)を提供することで、より効率的な資源の使用を奨励します。個々の熱や水の消費量の削減を促す費用対効果の高い手法です。現在、Techemのサービスは年間700万トン以上の二酸化炭素排出回避に繋がっています。

原則3

インパクトの実現に対するマネジャーの貢献を明確にすること

Techemのインパクト評価では、集合住宅にサブメータリング装置を設置・メンテナンスすることは、エネルギー使用量のモニタリングや温度調節の改善を可能にし、エネルギーの効率化を後押しするとされました。また、SDGs目標7.3(2030年までに世界のエネルギー効率改善率を2倍にする)を促進させると評価されました。更にTechemの主要投資家であるパートナーズ・グループは、過半数の経営権を保有することで、その専門知識を活用し、戦略面および運営面での改善を施し、Techemのインパクトを高めることができると評価しています。

パートナーズ・グループのインパクトへの貢献には以下が含まれます。

- 1. ビジネス構築:** パートナーズ・グループは、プラスのインパクトをもたらす資産を特定します。また、業界およびESGの専門家と構成される社内チームとビジネス構築ツールを活用し、中核となる事業を拡大していきます。パートナーズ・グループは、サブメータリング・サービスを拡大し、顧客全体にエネルギー効率化を推進することで、Techemの事業を拡大しています。
- 2. インパクトの価値創造:** パートナーズ・グループは、投資のプラスのインパクトを高めながら、業務上および/または財務上の指標を改善するための具体的な方法を特定します。Techemでは、エネルギー消費者が熱やお湯の消費量をより簡単にモニターし、同業他社との比較が出来るように、デジタル・コミュニケーション・ツールを改善する戦略を展開しました。既存顧客に対しては、消費者心理を活用し、エネルギー効率化を通じて更なる消費量の削減を促します。新規の顧客に対しては、技術的なソリューションをもって惹きつけます。さらに、Techemは、技術イノベーションにより暖房を最適化し、燃料を節約するシステムの開発を模索しています。このようなシステムを顧客の住宅に提供する事で、更なる消費量の削減と省エネ効果が見込めます。



2018年、パートナーズ・グループはお客さまに代わり、Techem に投資を行いました。Techem は、ドイツのエネルギー・インフラおよびエネルギー・サービス企業です。また、「サブメータリング」サービス市場のリーダーでもあります。

- 3. 経営陣との協力:** 投資先へのインパクトの推進には、経営陣からの賛同が必要です。これらの取り組みを実施する上で、パートナーズ・グループの積極的なオーナーシップ・モデルは、非常に有益です。多くの場合、経営陣の多くが推進に熱心です。例えば、Techem の経営陣は、政府との関係性を良好にするエネルギーの消費量、消費者マーケティング、従業員満足度、事業戦略に対するインパクトを数値化することを支持しています。そして Techem は、「ビルをグリーンでスマートなものにする」というビジョンを掲げ、「メータリング」企業から「エネルギー効率化」企業への転換を目指しています。
- 4. 説明責任の確保:** パートナーズ・グループは、全てのインパクト投資に対してインパクト重要業績評価指標 (KPI) を設定し、追跡し、毎年結果を報告しています。Techem は、顧客が達成したエネルギー消費の削減量測定のための手法を改善しました。インパクト貢献をモニタリングするために、パートナーズ・グループは、投資先管理プロセスにインパクト・ガバナンスを組み入れました。具体的には、投資チームが財務パフォーマンスだけでなくインパクトのパフォーマンスを、価値創造委員会に報告します。価値創造委員会とは、パートナーズ・グループの全投資先を監督する組織です。

「投資先へのインパクトの推進には、経営陣からの賛同が必要です。これらの取り組みを実施する上で、パートナーズ・グループの積極的なオーナーシップ・モデルは、非常に有益です。」

— パートナーズ・グループ、
ESG&サステナビリティ、
シニア・オペレーティング・アソシエイト
カルメラ・モンディーノ

著者|カルメラ・モンディーノ

本和訳は、IFC が作成した英文の記事を基にパートナーズ・グループ・ジャパン株式会社が作成したものです。英文と和訳との間に解釈の相違等がある場合には常に英文が優先します。英文は以下をご参照下さい。

<https://www.partnersgroup.com/en/news-views/in-the-media/detail/article/ifc-establishing-the-managers-contribution-to-the-achievement-of-impact/>